

都市再生整備計画事業「街なかギャラリー」編

酒造の歴史を地域資源に活用

問 経済振興課商工観光係 20211607

町は、国からの交付金を活用した「御船地区都市再生整備計画事業」を進めています。

この事業はシンボルロード線の沿道に交流や観光の拠点を整備して、新たなまちづくりを展開するものです。主に▼ふれあい広場▼新恐竜博物館▼子育てふれあい館▼観光交流センター▼街なかギャラリー▼町道改良―を、平成26年度までに順次整備する計画です。

中でも、酒蔵の蔵屋敷を地域資源に活用して、芸術文化の拠点に期待されるのが「街なかギャラリー」（ギャラリー）です。蔵屋敷は、本町通りに存在する築200年以上の歴史的な建築物で、林田能寛^{よしのひろ}の生家、よる屋、酒造業「大丸」として受け継がれてきた遺産を保存改修します。敷地面積は1861平方^{メートル}、費用は約9千6百万円です。

ギャラリーは、御船川左岸の商店

INTERVIEW



経済振興課商工観光係
古閑弘実 主幹兼係長

地域資源の有効活用で
通過型の地域を解消へ

町では近年、国道443号の開通、同445号やシンボルロード線の整備が進み、道路網が格段に発達しています。しかし一方で、通過型の地域となる心配の声もあります。そこで、単なる通過地点とならないように、人が訪れるようなまちづくりを目指して、街なかギャラリー整備に着手しました。

街なかギャラリー予定地の本町通りは、酒造業、西南の役、熊本県庁跡など、肥後熊本ゆかりの歴史と魅力が数多く存在します。蔵屋敷を地域資源に、芸術文化の発信と地域活性化の拠点となるような施設整備を進めていきます。



●街なかギャラリー整備
基本構想・基本計画
ギャラリー整備に向けて、本町通りの現況と問題点、活性化の方向、ギャラリー導入機能、建築物の保存修復整備、管理運営などをまとめた計画。全100頁。平成23年3月策定。

街へ来訪者を誘導して、御船の芸術や歴史に触れる場所を提供します。具体的には、歴史資料を展示保存する郷土資料館、コンサートや演劇を催す多目的ホールと文化ホール、美術作品の展示コーナー、土産や特産品の販売コーナーといった機能を想定した施設です。歴史教育や文化芸術を育みながら、観光の集客効果で地域おこしの可能性を生み出します。

ギャラリーの整備は、平成22年度に検討委員会（熊本大学教授・伊藤龍一委員長）を立ち上げ、蔵屋敷の保存、改修や利活用の方法などを話し合いました。その結果を基に、基本構想・基本計画を作成しています。

平成23年度以降は、蔵屋敷の改修設計と改修工事を進めながら、平成25年度の開館に向けて準備を行っています。



声
Voice

街なかギャラリーが果たす役割と生み出す可能性を聞いてみました。



ギャラリー検討委員会
竹田津 純 さん（辺田見）

ギャラリーとなる蔵屋敷は、町で最後の酒蔵。活用して町内外の人に歴史的遺産を知ってもらうことが大事です。美術や工芸品を身近に触れることで、新たな芸術文化の拠点にもなります。まずは町民が寄って、ふれあい、つながりを強める場所を望みます。さらに御船高校や平成音楽大学の学生の創造意欲を取り入れていくことで、過去と現代を結ぶ時代の育成にもなります。

呉服店や飲食店を営む

永本 文宣 さん（滝川）

ギャラリーは、町の観光を再生する期待があります。大型店舗の進出で、人の足が遠のいた本町通りに、人の流れを取り戻すこともできます。そのためにも新恐竜博物館への来館者を呼びこみ、観光客をもてなす人材育成と商店のレベルアップも必要です。私たち商店主が努力すれば、町の魅力アップにもつながります。ギャラリーは、町民力の感性を磨き上げる場所にもなると思います。



計画
Plan

街なかギャラリーの整備計画の進行予定を年度ごとに紹介します。

平成22年度 ▼ 建物調査、基本構想・基本計画策定、土地建物の取得

平成23年度 ▼ 改修設計、改修工事

平成24年度 ▼ 改修工事

平成25年度 ▼ 開館

※計画での改修工事は、南蔵と母屋の一部を予定しています。

詳しくはホームページ 御船町 街なかギャラリー 検索



街なかギャラリー
Gallery

御船川左岸の歴史的建築物を活用して、郷土資料館、美術品展示、交流スペースなどを整備。地域おこしの活動拠点として、商店街の再生を目指します。



- 期間 平成22-25年度
- 場所 本町通りの蔵屋敷
- 内容 ギャラリー整備
- 費用 9580万円



機能
function

- ①美術作品を収集、展示、保管する文化芸術の拠点
- ②郷土資料を収集して歴史を後世へと継承する拠点
- ③企画展示、イベント、特産品販売などの集客拠点



街なかギャラリーの整備が検討されている本町通りの蔵屋敷



御船は江戸後期から昭和初期までの約200年間、県下の「酒造りのまち」として栄えた。御船川沿いの「白壁」の酒蔵と町並みはシンボルだった。しかし酒造業は昭和の不況や国策重税で相次いで廃業。昭和後期には酒蔵も完全に姿を消した。街なかギャラリーは、酒造の歴史文化を地域資源に、商店街の活性化に向けて、整備される。